資料５

現行の一般廃棄物処理基本計画と実績との比較

１　ごみ量予測について

①　ごみ量の予測

→別紙１　予測ごみ量と実績ごみ量との比較

・現行計画では、清掃事業課題「長期的ごみ量推計の手法の検討」に基づき、総ごみ量を 18 年度 348 万ｔ、19 年度 348 万ｔと予測しているが、実績ごみ量は 18 年度 333 万ｔ、19 年度 322 万ｔとなっている。

②　最終処分量の予測

→別紙２　最終処分量、スラグ生成量及びスラグ有効利用量の推移

・最終処分量はサーマルリサイクルの本格実施により、平成 21 年度以降、ほぼ現行計画どおりに推移する見込である。

　一方、溶融スラグについては、現行計画では 22 年度の生成量を 20.1 万ｔ、有効利用量を 20.1 万ｔと予測しているが、19 年度の実績では生成量は 8.8 万ｔ、有効利用量は 6.9 万ｔとなっている。

２　施設整備計画について

①　施設整備の期間

→別紙３　施設整備期間の延長について

・現行計画では、計画期間中の施設整備は既存施設の建替え又はプラント更新によるものとしているが、「プラント更新の今後の扱い」（平成 19 年 10 月管理者決定）により、プラント更新については、その優位性が確認できない限り実施しないこととした。

・建築基準法の改正により計画期間の延長が必要となった。

②　不燃ごみ処理施設・粗大ごみ処理施設

→別紙４　中防におけるごみ処理について

・現行計画に基づいて、平成 20 年 4 月から中防不燃ごみ処理センター第一プラントを停止した。

・中防外側埋立処分場で実施している各種作業について、東京都からの長期的な作業用地の借り受けが難しい状況にある。

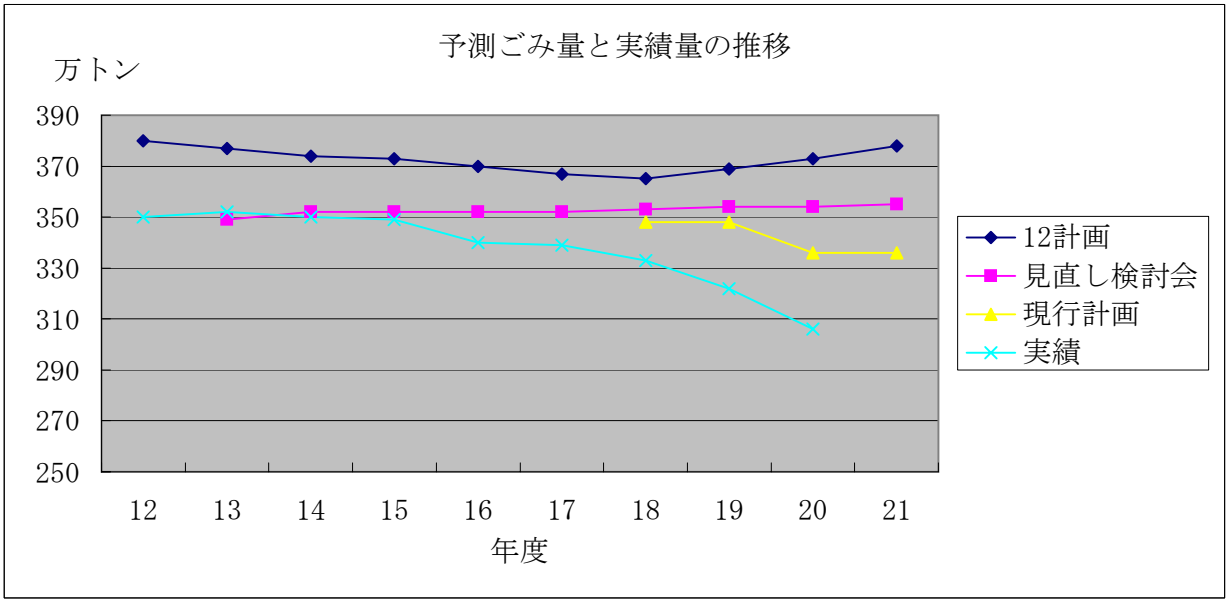
・粗大ごみ処理施設は竣工後約 30 年が経過し老朽化が著しい。

・中防処理施設周辺道路の一般公道化が予定され、周辺へのごみ飛散防止や臭気対策が今まで以上に必要となる。

資料５（別紙１）

予測ごみ量と実績ごみ量との比較

１　総ごみ量の比較



（総ごみ量）　　単位：万トン

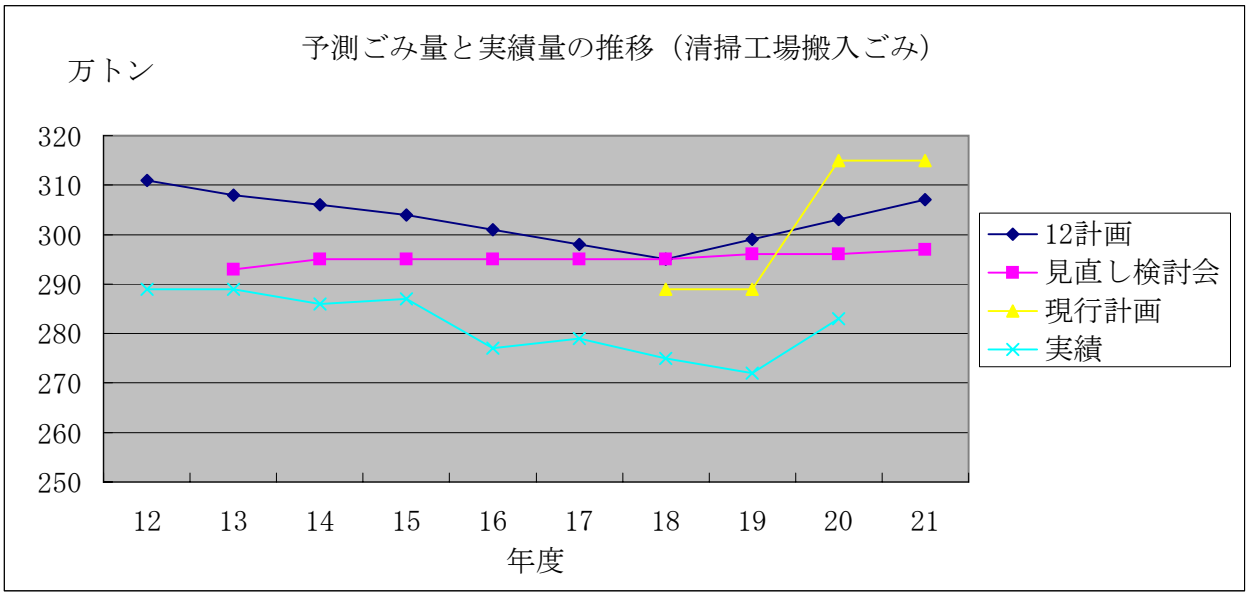
年度		12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
12計画	（ａ）	380	377	374	373	370	367	365	369	373	378
見直し検討会	（ｂ）		349	352	352	352	352	353	354	354	355
現行計画	（ｃ）							348	348	336	336
実績	（ｄ）	350	352	350	349	340	339	333	322	306	
実績－現行計画											
（ｄ）－（ａ）		-30	-25	-24	-24	-30	-28	-32	-47	-67	
（ｄ）－（ｂ）			3	-2	-3	-12	-13	-20	-32	-48	
（ｄ）－（ｃ）＝（ｅ）								-15	-26	-30	
現行計画と実績の乖離率											
（ｅ）／（ｃ）								-4.3%	-7.5%	-8.9%	

注１）総ごみ量＝区収可燃ごみ＋区収不燃ごみ＋粗大ごみ＋持込ごみ＋管路ごみ

※12計画とは、12年4月策定の一廃基本計画の計画ごみ量(東京スリムプラン21のごみ量を継承)。
※見直し検討会とは、14年3月の一廃基本計画見直し検討会報告の予測ごみ量。
※現行計画とは、18年1月策定の現行の一廃基本計画の計画ごみ量。
※実績とは、過去の実績ごみ量。20年度は、20年度実績（20年4月～21年2月実績）による推計値。

注)20年度ごみ量は、現時点での推計値であり今後変更する可能性があります。

２　清掃工場搬入ごみ量の比較



（清掃工場搬入ごみ量）　　単位：万トン

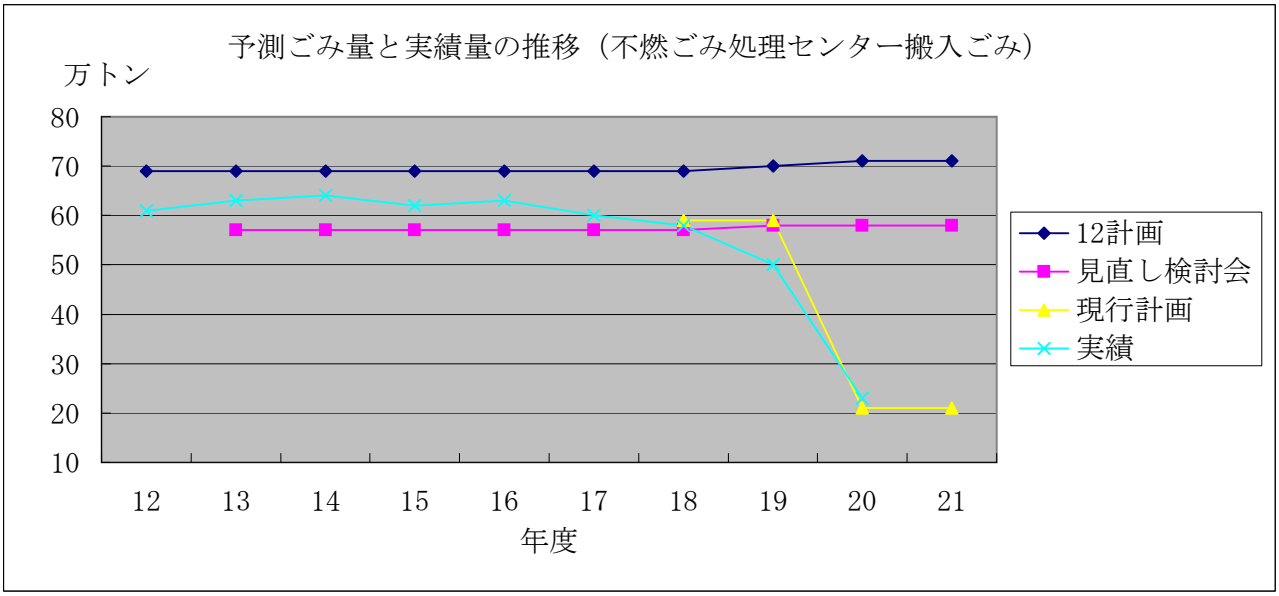
年度		12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
12計画	（ａ）	311	308	306	304	301	298	295	299	303	307
見直し検討会	（ｂ）		293	295	295	295	295	295	296	296	297
現行計画	（ｃ）							289	289	315	315
実績	（ｄ）	289	289	286	287	277	279	275	272	283	
実績－現行計画											
（ｄ）－（ａ）		-22	-19	-20	-17	-24	-19	-20	-27	-20	
（ｄ）－（ｂ）			-4	-9	-8	-18	-16	-20	-24	-13	
（ｄ）－（ｃ）＝（ｅ）								-14	-17	-32	
現行計画と実績の乖離率											
（ｅ）／（ｃ）								-4.8%	-5.9%	-10.2%	

注１）清掃工場搬入ごみ量＝区収可燃ごみ＋管路ごみ＋粗大ごみ（破砕後清掃工場処理分）
　　＋持込ごみ（清掃工場搬入分）

※12計画とは、12年4月策定の一廃基本計画の計画ごみ量(東京スリムプラン21のごみ量を継承）。
※見直し検討会とは、14年3月の一廃基本計画見直し検討会報告の予測ごみ量。
※現行計画とは、18年1月策定の現行の一廃基本計画の計画ごみ量。
※実績とは、過去の実績ごみ量。20年度は、20年度実績（20年4月～21年2月実績）による推計値。

注）20年度ごみ量は、現時点での推計値であり今後変更する可能性があります。

３　不燃ごみ処理センター搬入ごみ量の比較



（不燃ごみ処理センター搬入ごみ量）　　単位：万トン

年度		12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
12計画	（ａ）	69	69	69	69	69	69	69	70	71	71
見直し検討会	（ｂ）		57	57	57	57	57	57	58	58	58
現行計画	（ｃ）							59	59	21	21
実績	（ｄ）	61	63	64	62	63	60	58	50	23	
実績－現行計画											
（ｄ）－（ａ）		-8	-6	-5	-7	-6	-9	-11	-20	-48	
（ｄ）－（ｂ）			6	7	5	6	3	1	-8	-35	
（ｄ）－（ｃ）＝（ｅ）								-1	-9	2	
現行計画と実績の乖離率											
（ｅ）／（ｃ）								-1.7%	-15.3%	9.5%	

注１）不燃ごみ処理センター搬入ごみ量＝区収不燃ごみ＋粗大ごみ（破砕後清掃工場以外での処理分）
＋持込ごみ（清掃工場以外の搬入分）

※12計画とは、12年4月策定の一廃基本計画の計画ごみ量(東京スリムプラン21のごみ量を継承）。
※見直し検討会とは、14年3月の一廃基本計画見直し検討会報告の予測ごみ量。
※現行計画とは、18年1月策定の現行の一廃基本計画の計画ごみ量。
※実績とは、過去の実績ごみ量。20年度は、20年度実績（20年4月～21年2月実績）による推計値。

注）20年度ごみ量は、現時点での推計値であり今後変更する可能性があります。

資料5(別紙2)

最終処分量、スラグ生成量及びスラグ有効利用量の推移

1．最終処分量

実績および推計値　　（単位：万ｔ）

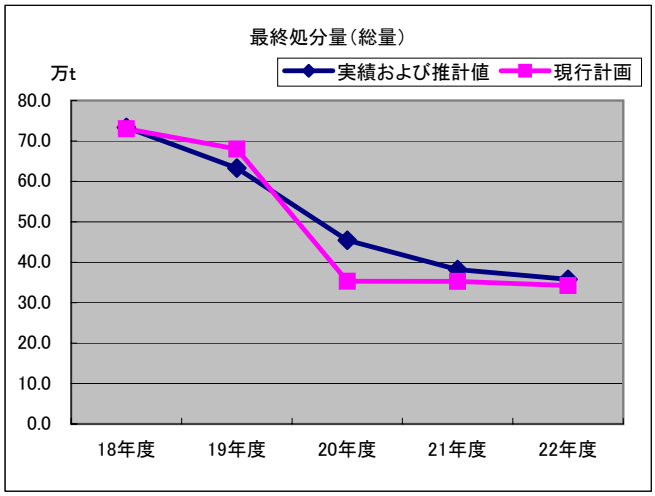
		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
最終処分量		73.3	63.3	45.4	38.2	35.8
内訳	残灰等	25.5	21.8	20.3	14.4	14.4
内訳	不燃物	43.3	37.0	21.5	21.4	19.0
内訳	粗大	4.6	4.5	3.7	2.4	2.4

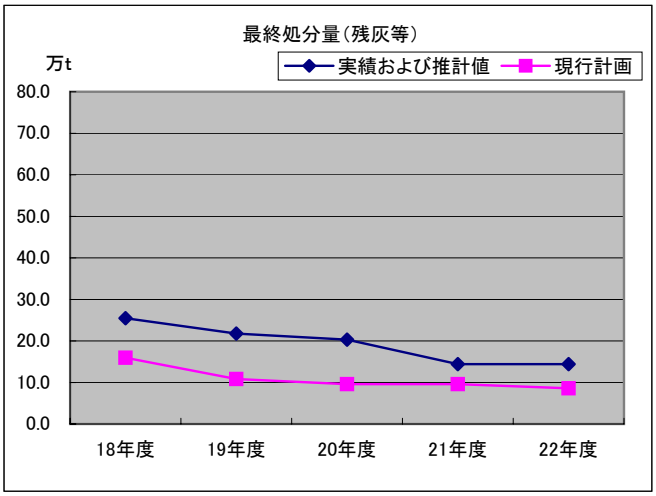
※　20年度から22年度は推計値。
※　残灰等は、焼却灰、溶融飛灰、溶融不適物、ケーキ汚泥、スラグの合計である。

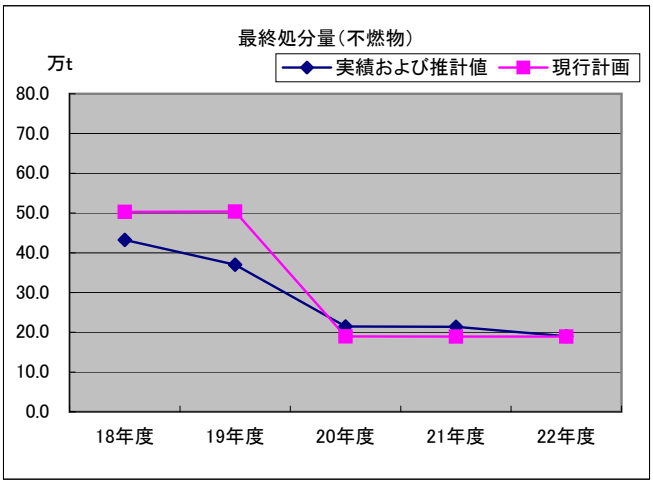
現行計画　　（単位：万ｔ）

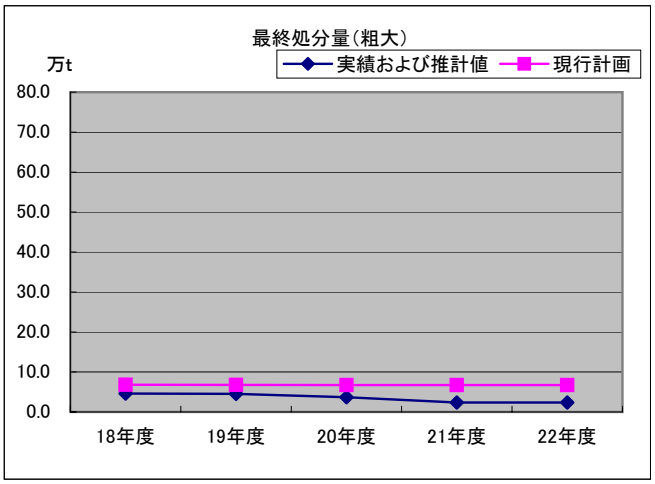
		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
最終処分量		73.0	68.0	35.3	35.3	34.2
内訳	残灰等	15.9	10.8	9.6	9.6	8.6
内訳	不燃物	50.3	50.4	19.0	18.9	18.9
内訳	粗大	6.8	6.8	6.7	6.7	6.7

※　残灰等は、焼却灰、溶融飛灰、溶融不適物、ケーキ汚泥の合計である。







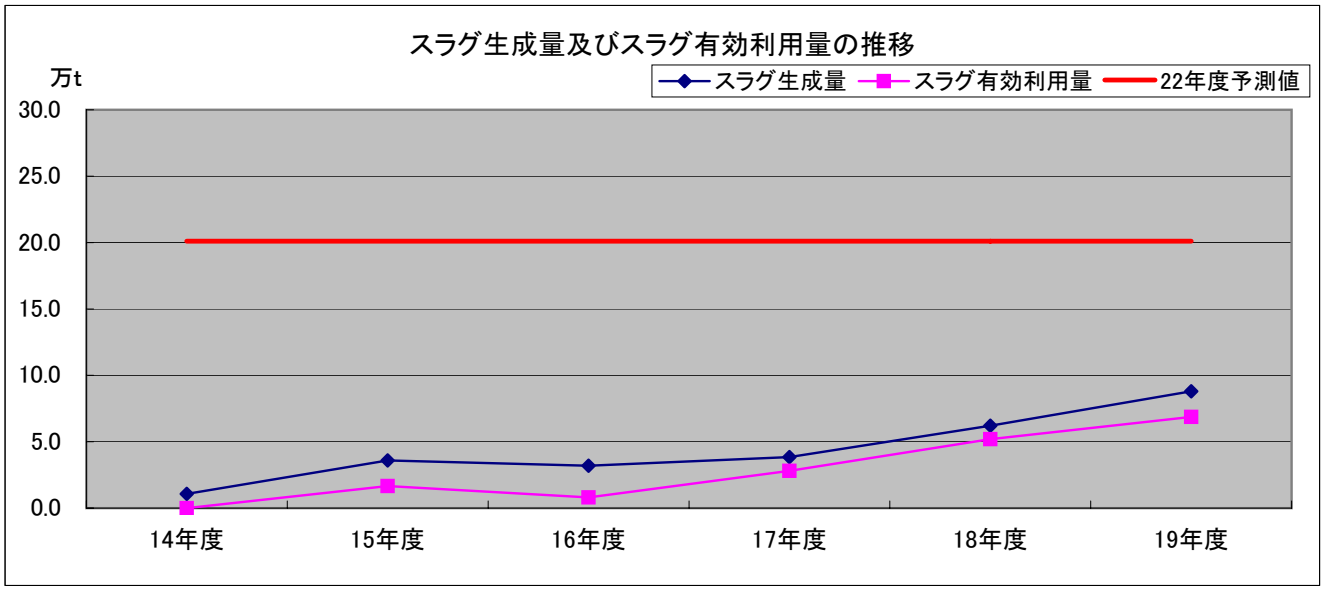


資料5(別紙2)

２．スラグ生成量及びスラグ有効利用量

（単位：ｔ）

	実績						現行計画予測値
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	22年度
スラグ生成量	10,674	35,906	31,940	38,467	62,047	88,045	201,000
スラグ有効利用量	0	16,675	8,074	28,050	51,916	68,747	201,000
３用途合計	0	1,627	7,944	9,859	8,339	7,990	—
アスファルト	0	300	1,015	1,733	3,427	3,717	—
コンクリート	0	9	229	65	139	476	—
埋め戻し材	0	1,318	6,700	8,061	4,773	3,797	—
その他	0	15,048	130	18,191	43,577	60,757	—



資料5（別紙3）

施設整備期間の延長について

工場名		更新後規模	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
練馬	現行計画	300t/日・炉×2炉			←				→						
	変更後	250t/日・炉×2炉			←					→					
	延長理由		・建築基準法改正 ・工事内容(地下工事)												
杉並	現行計画	300t/日・炉×2炉					⇔			→					
	変更後	300t/日・炉×2炉					←					→			
	延長理由		・建築基準法改正 ・プラント更新から建替えに変更 ・工事内容(人工地盤)												
大田第2（第1期工事）	現行計画	300t/日・炉×2炉			⇔										
	変更後	300t/日・炉×2炉		←					→						
	延長理由		・建築基準法改正 ・プラント更新から建替えに変更 ・準備期間短縮による前倒し												

※1　上記の整備期間は、現計画は標準工期、変更後は工事条件等を考慮した現時点での工期。

※2　上記の整備期間に解体前清掃は含まない。

※3　変更後の杉並(工)整備期間は「平成21年3月　杉並清掃工場建替計画」による。

※4　大田第2（第1期工事）は、灰溶融施設（140t/日）の整備を含んだものであるが、灰溶融施設については、安定稼動や経済性向上などの課題が多く、溶融スラグの有効利用についても、生産量に見合う需要の確保が難しい状況であることから、現行計画を変更し、第2期工事に整備時期を移すこととする。

中防におけるごみ処理について（埋立処分場現況図）

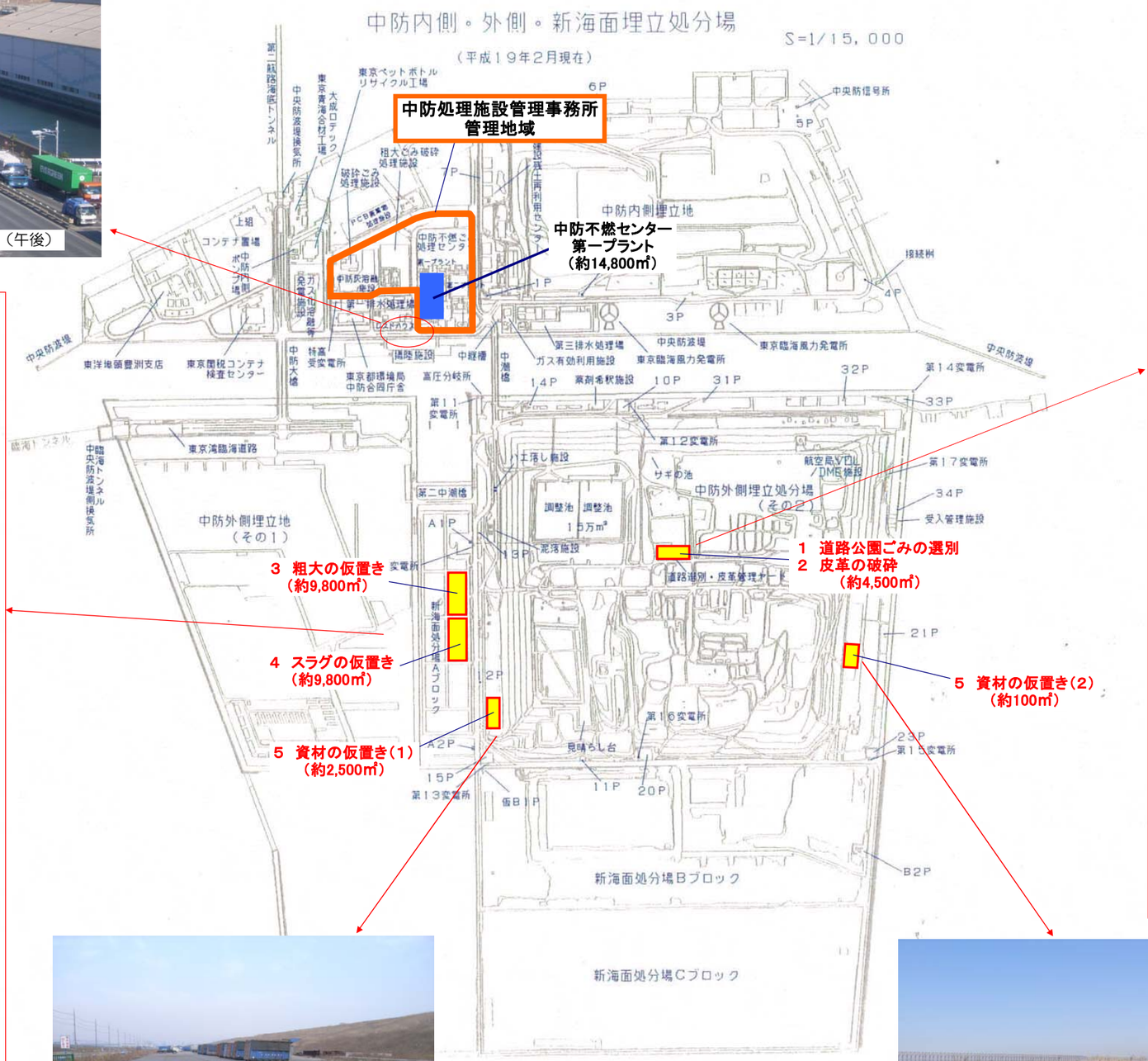
資料5（別紙4）

臨港道路　中防内側東側３号線　渋滞時の状況（午後）

３ 粗大の仮置き　４ スラグの仮置き　　全景

３　粗大の仮置き

４　スラグの仮置き



１ 道路公園ごみの選別、２ 皮革の破砕　全景

１　道路公園ごみの選別（選別機）

２　皮革の破砕（処理不適物破砕機）

５　資材の仮置き（１）

５　資材の仮置き（２）